

## 学生の障害児者に対する受容的態度に関する研究 (第2報)

豊村和真

### 目次

#### 【問題意識と目的】

#### 【方法】

#### 【結果と考察】

- 1 素点の全体的傾向
  - 1) 受容的態度項目について
  - 2) 接近許容度項目について
  - 3) 知識項目(知識1)について
  - 4) 交流経験項目について
  - 5) 知識項目について
- 2 結果の性別, 学校別傾向について
- 3 受容的態度の因子的妥当性について

#### 【文献】

#### 【問題意識と目的】

昨年度第一報で, 障害者に対する地域住民の人々の態度を, 将来専門家として, 彼らに直接接することになる介護福祉専門学校学生およびその可能性の高い福祉系学科に属する学生とその他の学科に属する学生の態度を調査することを目的とした報告を行った(豊村, 2004)。

本年度はそれらのデータに, 実際には同時期に同内容のアンケートを実施した高校生のデータを加え, 全体として高校から, 介護福祉専門学校生, 大学生までの学生のデータを対象に昨年報告同様, 全体的な傾向についての基礎的な集計結果を示すことを目的とする。

さらに障害者に対する受容的態度について,

学生を介護系の専門学校生, 福祉系学部の学生, 非福祉系学部の学生間での差異および性差について報告する。性差については, 生川(1995)がレビューしているように, 必ずしも安定した結果がえられないようであるので, 今回は特に検討する。さらにこれらの結果が生川(1995)の結果と因子的に同じ構造を持つかどうかとも検討する。

#### 【方法】

調査対象者は昨年度と同様であるが高校1～3年生(以下「高1」, 「高2」, 「高3」), 介護福祉系専門学校生(以下「介護専学」), 大学生(英文学科, 経済学科等非福祉系の学科(以下「非福祉大」), 福祉系学科(以下「福祉系大」)), 合計1439名である(表1参照)。なお, 昨年のデータから介護専学, 福祉系大, 非福祉大からはそれぞれ各2, 1, 4名についてはほぼ無回答であるなど不適切な回答をしたものを除いてある。なお, 高校生における調査時期は他の大学生たちと同時期であった。

表1 被験者構成

区分		性別		合計
		女性	男性	
1_高1		117	180	297
2_高2		151	220	371
3_高3		112	187	299
4_介護専学		69	59	128
5_福祉系大		74	33	107
6_非福祉大		107	130	237
合計			630	809

キーワード：障害, 受容, 性差, 態度

配布は大学および専門学校の講義の時間に行い、その場で回収した。その場での回収が困難な学生には自宅に持ち帰って回答した後、設置してあった質問紙回収箱に入れさせた。高校生は授業中に教員によって実施された。調査用紙は全て豊村(2004)と同じであるが、以下に改めて記述する。

調査用紙は、精神障害者、知的障害者、身体障害それぞれに対する関心、地域交流、働きかけ、職場進出、能力、その他に関するものから構成される16の受容的態度項目、出現率や犯罪率など知識に関する4項目、会話経験や仕事(遊び)経験、ボランティア経験に関する5項目、性別や在籍学科、学年など被験者のプロフィールを記入する3項目から構成されていた。詳細は以下の通りである。

受容的態度項目として、生川(1995)の結果32項目の中から本研究の目的にそぐわない総合教育尺度をまず除いた。残った実践的好意、能力肯定、地域交流、理念的好意の4つの態度尺度から、各態度尺度の信頼性、内的一貫性などを検討するために算出された態度尺度得点と尺度を構成する下位項目との相関係数が高い上位4項目づつを取り出し、16項目を採用した。

生川(1995)の対象は精神遅滞児(者)であったため、質問内容の「ちえ遅れの人」または「ちえ遅れの子ども」を「精神障害者」、「知的障害者」、「身体障害者」の3パターン作成し、その結果調査対象者1人に対し16項目×3障害の計48項目となった。これらは5段階評価である(付録1参照)。

知識項目として生川(1995)が設定した知識に関する5項目において、知識の有無と態度尺度得点との間に関係が認められなかったとされる3項目を除いた2項目に2項目を追加した4項目を設定し、態度項目と同様に4項目×3障害の計12項目を作成した。これらは各1点とした。これらの項目を以後知識1とする(具体的項目については付録1を参照)。

交流経験項目として、藤本・小花和(1973)の調査で用いられた精神障害に関する知識項目のうち、質問内容を「知的障害」と「身体障害」のどちらに変更しても使用可能と思われる5項目を設定し、5項目×3障害の計15項目を作成した。これらも各1点とした。

どの程度具体的に障害者との関係が考えられるかを調査するために、障害ごとに程度が異なると考えられる4項目を作成した。それぞれ隣に引っ越してもかまわない(「許隣人」)、友達になってもかまわない(「許友人」)、恋愛感情が伴う交際をしてもかまわない(「許恋愛」)、結婚してもかまわない(「許結婚」)という項目である(全文は付録1参照)。

障害に関する知識として、難聴、精神分裂病、精神遅滞、花粉症、ちえ遅れ、うつ病、肢体不自由を知的障害、身体障害、精神障害に分類する項目を作成したが今回の分析からは除き、渡邊・宮本(2000)の項目から福祉施設を児童相談所～軽費老人ホーム19項目から福祉施設を選択する項目のみを採用した。なお、分析にはSPSS Ver.12を使用した。

## 【結果と考察】

昨年度報告に高校生のデータを追加したため、ほぼ思春期後期から若年成人の障害者に対する受容的な態度および、それに関連する属性について全般的な検討が可能になった。そこで今回は昨年度の結果と対比しつつ報告する。

### 1 素点の全体的傾向

被験者属性を問題にせず、障害者に対する受容的態度その他について個々の素点を元にした平均値による検討を行った。

#### 1) 受容的態度項目について

障害に関する受容的態度16項目について、各項目に1点～5点を与え、それらの値に基

表2 障害別受容的態度, 接近許容度, 知識, 交流経験得点平均点とSD

項目	知的障害		身体障害		精神障害		有意差	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	今回の結果	(豊村,2004)
受容的態度	01_住みややすく	4.05 (1.00)	4.51 (0.84)	3.88 (1.09)	精<知<身	精<知<身		
	02_国が援助	4.00 (1.03)	4.32 (0.91)	3.77 (1.13)	精<知<身	精<知<身		
	03_親だけ限界	4.13 (1.00)	3.97 (1.11)	4.09 (1.13)	身<精=知	n.s.		*1
	04_社会全体責任	3.44 (1.13)	3.69 (1.12)	3.47 (1.19)	知=精<身	精=知<身		
	05_望_ボラ参加	2.91 (1.27)	3.27 (1.26)	2.88 (1.30)	精=知<身	精=知<身		
	06_望_放送	2.84 (1.22)	3.05 (1.25)	2.95 (1.29)	知<精<身	知<精=身		*2
	07_望_接触	2.83 (1.22)	3.23 (1.23)	2.82 (1.28)	精=知<身	精=知<身		
	08_望_新聞記事	2.85 (1.19)	3.03 (1.22)	2.95 (1.29)	知<精<身	知<精=身		*2
	09_普通生活可	3.24 (1.17)	3.71 (1.13)	3.10 (1.21)	精<知<身	精=知<身		*3
	10_多様作業可	3.43 (1.10)	3.76 (1.12)	3.30 (1.20)	精<知<身	精=知<身		*3
	11_健常作業可	3.32 (1.16)	3.76 (1.13)	3.26 (1.20)	精=知<身	精=知<身		
	12_指導効果有効	3.65 (1.05)	3.95 (1.05)	3.53 (1.17)	精<知<身	精<知<身		
	13_共同生活要	3.71 (1.03)	3.97 (1.03)	3.56 (1.18)	精<知<身	精<知<身		
	14_社会参加良	3.72 (1.03)	4.05 (0.97)	3.56 (1.18)	精<知<身	精<知<身		
	15_健障共労働良	3.73 (1.06)	4.04 (1.00)	3.51 (1.18)	精<知<身	精<知<身		
	16_健障交流良	3.92 (1.04)	4.13 (1.00)	3.69 (1.16)	精<知<身	精<知<身		
接近許容度	許隣人	3.71 (1.30)	4.22 (1.12)	3.14 (1.45)	精<知<身	精<知<身		
	許友人	3.51 (1.28)	4.08 (1.15)	3.07 (1.39)	精<知<身	精<知<身		
	許恋愛	2.33 (1.30)	2.98 (1.40)	2.25 (1.28)	精<知<身	精=知<身		*3
	許結婚	2.13 (1.28)	2.70 (1.41)	2.06 (1.25)	精<知<身	精=知<身		*3
知識1	生可能出現率	0.93 (0.25)	0.90 (0.30)	0.79 (0.41)	精<身<知	精<知=身		*4
	遺伝性	0.75 (0.43)	0.76 (0.43)	0.74 (0.44)	n.s.	n.s.		
	犯罪性	0.88 (0.33)	0.91 (0.29)	0.91 (0.29)	知<身=精	n.s.		*5
	犯罪性	0.78 (0.41)	0.94 (0.24)	0.50 (0.50)	精<知<身	精<知<身		
交流経験	経験話	0.66 (0.48)	0.57 (0.49)	0.20 (0.40)	精<身<知	精<知=身		*6
	経験仕事	0.43 (0.49)	0.32 (0.47)	0.12 (0.32)	精<身<知	精<知<身		
	経験食事	0.32 (0.47)	0.27 (0.45)	0.10 (0.30)	精<身<知	精<知=身		*6
	経験生活	0.12 (0.33)	0.13 (0.34)	0.05 (0.22)	精<知=身	精<知=身		
	経験ボラ	0.14 (0.35)	0.15 (0.36)	0.05 (0.22)	精<知=身	精<知=身		

づき個別に分散分析をした(表2 受容的態度部分参照)。

障害別にそれぞれの受容的態度項目の平均値および、SD(標準偏差)を示した。なお、有意差とあるのは、各項目ごとに、一元配置の分散分析を行い、有意差が見られた項目についてはTukeyの多重比較を実施した(5%の有意水準)結果である。

知的障害, 身体障害, 精神障害, をそれぞれ、「知」、「身」、「精」と表し、有意差が見られた水準間は不等号「<」で、有意差が見られない水準間は「=」で表現した。

3つの障害別に有意差が出た項目について

下位検定を行い、有意差が見られた項目についてはそれらの大小を不等号記号および等号で示したのが表1右端の有意差である。

豊村(2004)の結果を表中に入れてある。これと今回の結果を比較すると高校生のデータが及ぼす影響がある程度わかる。増えた結果有意である項目が変化したのはQ3\_親だけ限界(〇〇障害の人の面倒を見るのは、親だけでは限界があると思う)でこれは、前回には有意差が見られなかったものが、身体障害と知的障害・精神障害間に有意差が見られるようになった。

他にも表2中の最後に\*をつけて変化のあつ

た項目を変化別に分類した。全ての変化は、

**障害間に有意差なし→障害間に有意差あり**  
の方向に変化している。最終的には全ての障害者に対する態度が障害別にどこかに有意差が生じている。おおむね前回の結果が再現された。もっとも多かったのは精神障害、知的障害、身体障害の順に受容的である項目であった。この順でない項目は、Q 3\_親だけ限界(〇〇障害の人の面倒を見るのは親だけでは限界があると思う)、Q 6\_望\_放送(〇〇障害に関するテレビやラジオの放送を見たり聞いたりしたいと思う)とQ 8\_望\_新聞記事(〇〇障害に関する新聞記事などを読みたいと思う)のみであった。

結局前回と同様、

**精神障害≤知的障害≤身体障害**  
という傾向がみられた。

## 2) 接近許容度項目について

接近許容度項目 4 項目について、各項目に 1 点～5 点を与え、それらの値に基づき個別に分散分析をした(表 2 接近許容度部分参照)。

「許隣人」(〇〇障害の人があなたの家の隣に引っ越して来てかまわない)、「許友人」(〇〇障害の人と友達になってもかまわない)、「許恋人」(〇〇障害の人と恋愛感情が伴う交際をしてもかまわない)、「許結婚」(〇〇障害の人と結婚してもかまわない)という 4 項目であるが、全て、

**精神障害<知的障害<身体障害**  
という順であった。後の項目ほど接近許容度が高くなる。昨年度は、『許友人』のほうが、「許隣人」より得点はわずかに高く、隣人関係より友人関係が許容できるようである。友人は選択できるが、隣人は選べない(にくい)ことがその理由である可能性がある。』(豊村, 2004)としたが、高校生も含めると最初の予想通りの順に接近許容度が高まるようになった。また、高校生を含めることにより前回は

見られた「許恋人」「許結婚」も知的障害より精神障害で許容できなくなるよう変化した。

## 3) 知識項目(知識 1)について

知識項目 4 項目について、各項目に 0 点(不正解)～1 点(正解)を与え、それらの値に基づき個別に分散分析をした(表 2 知識 1 参照)。

知識項目のみ記述は直接の問いに対する答えではなく、正解率に変えてある。従って表中 1.0 が全員正解、0 が全員不正解になるように変換されている。

障害の「出現率」(〇〇障害の出現率は人口 1000 人中 1 名以下ですか)のみ有意差が見られないが、前回有意差の見られなかった「遺伝性」(〇〇障害はすべて遺伝によるものだと思いますか)に関する項目の正解率には障害間で有意差が見られるようになった。しかしこの項目は知的障害は身体障害および精神障害よりも低いという結果になり、かならずしも一元的には表現しにくい結果となった。

ただおおむね精神障害が理解されていないといえよう。特に「犯罪性」については 0.50(前は 0.54)と正解率が低くなった。

## 4) 交流経験項目について

交流経験項目 5 項目について、各項目に 0 点(なし)～1 点(あり)を与え、それらの値に基づき個別に分散分析をした(表 2 交流経験部分参照)。

「経験話」(〇〇障害の人と話をしたことがある)、「経験仕事」(〇〇障害の人と一緒に仕事(遊び)をしたことがある)「経験食事」(〇〇障害の人と一緒に食事をしたことがある)「経験生活」(〇〇障害の人と生活を共にしたことがある)「経験ボラ」(〇〇の人のために活動するボランティアに参加したことがある)の項目であるが、頻度としては、

**「経験生活」≤「経験ボラ」<「経験食事」  
<「経験仕事」<「経験話」**

の順で頻度が上昇した。

精神障害児者における交流経験値は圧倒的に低い値であった。精神障害児者と話をしたことがある人でさえ5人に1名(前は4名に1名)程度ということになる。

ただ、経験話、経験仕事、経験食事が知的障害で身体障害を抜いて経験率が高くなっている(ただし有意差はない)のは、高校で知的障害者の施設を見学・ボランティア体験をしていることの反映であると思われる。全体として、

**精神障害<身体障害≤知的障害**  
となった。

### 5) 知識項目について

「知識1」に加えて、知識項目として「福祉施設」を加えた。

「福祉施設」は渡邊・宮本(2000)に従って、児童相談所、福祉事務所、産院、幼稚園、保育所、児童養護施設少年院、ろう学校、ろう児施設、ろう幼児通園施設、知的障害児施設、養護学校、老人クラブ、児童自立支援センター、保健所、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、軽費老人ホー

ムの中から福祉施設を選ばせるもので、学年別学科別の選択率を示した。

表3は全体の割合は今年度の結果、豊村(2004)は昨年度の結果、その右側の高1～非福祉大は今年度の学年学科別の結果になっている。一概に高校生が正答率が低い等のことは言えない。例えば児童相談所が福祉系大で極端に高く、児童自立支援センターの値が介護専学でのみ極端に低い。これは例えば少年院などと混乱したのであろうか。

児童相談所、福祉事務所、ろう学校、養護学校等が高い値を示しているが、渡邊・宮本(2000)でもほぼ同様の傾向が見られており、福祉関係機関、学校と福祉施設との相違・区別がしっかり認識されていないことを示すと述べている。

### 2 結果の学校別、性別傾向について

各受容的態度16項目について、学校×障害の2元配置分散分析を行い、さらにTUKEYの多重比較を行った。その結果を表4に示す。また、この表を図示したのが、図1である。これは受容的態度16項目別各学校別各障害別の積層図になっており、高い方がより受容的

表3 福祉施設と回答した割合

	全体の割合	豊村(2003)の割合	高1	高2	高3	介護専学	福祉系大	非福祉大
養護学校	49.6	44.3	51.2	51.5	54.2	36.7	43.0	48.9
福祉事務所	44.3	39.2	50.2	51.2	37.8	38.3	45.8	36.7
ろう学校	41.1	40.3	41.1	40.7	42.5	33.6	42.1	43.5
児童相談所	31.4	37.6	26.9	27.5	31.1	27.3	61.7	32.1
有料老人ホーム	28.0	35.1	19.9	26.1	27.1	53.9	34.6	25.3
老人クラブ	27.4	22.1	29.6	32.3	27.4	22.7	19.6	22.8
保育所	26.6	26.9	24.9	24.8	29.8	32.0	31.8	22.4
保健所	19.3	13.4	21.2	21.6	24.1	9.4	17.8	13.5
少年院	11.0	9.8	12.1	11.9	11.0	5.5	14.0	10.1
幼稚園	6.5	3.3	8.8	8.1	7.4	3.1	3.7	3.0
産院	3.5	2.9	3.4	1.6	7.0	3.1	6.5	1.3
養護老人ホーム	72.6	72.2	70.7	71.4	75.6	76.6	79.4	67.5
特別養護老人ホーム	69.1	77.2	60.3	66.6	67.9	85.9	86.0	69.2
知的障害児施設	68.5	71.2	66.0	66.6	68.6	68.8	85.0	66.7
児童養護施設	66.1	72.7	56.6	64.4	67.2	67.2	86.9	69.2
ろう児施設	52.5	61.0	43.1	48.0	54.2	58.6	72.0	57.0
ろう幼児通園施設	46.6	52.2	40.1	44.2	47.5	50.8	60.7	48.5
軽費老人ホーム	40.5	47.2	34.3	37.2	39.8	63.3	51.4	37.1
児童自立支援センター	35.1	42.2	30.6	28.3	36.5	35.2	64.5	36.3

である。この図から明らかなように、高校生はほぼ同等、あるいは学年が高くなるにつれて受容的になり、高校生よりも非福祉大が受容的、そして福祉系大、介護専学と受容的になることがわかる。

表4の数値は各項目の平均点である。各項目別障害別に各学年・学校での最大値と最小値をマークした。明らかに最大値は介護専学、ついで福祉系大で多く、最小値は高校生で多かった。ただし精神障害者に対するQ13\_共同生活要（精神障害の人たちも他の人たちと一緒に生活することが必要だと思う）だけは非福祉大で最小値を示した。

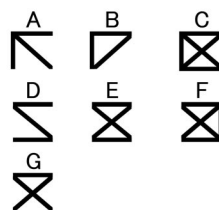
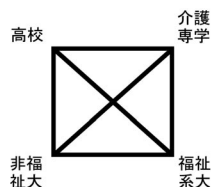
検定結果においては、昨年度あった男女差の項は全ての項目で見られたため、省略した。学校間の項は、学年・学校6×障害3という

のは細かすぎて見にくいため、高校生を一括し、また障害別の差を一括して一元配置4要因の多重比較を行ったが、それでも検定は6通りになるため、結果を表の下にあるA～Gのパターンを用いて示した。

このパターンは左側にある大きな図のように左上角を高校生（高1～高3平均）とし、時計回りに表の項目の順に、介護専学、福祉系大、非福祉大としてあるが、それらの間にTukeyの多重比較をして有意差があったものを実線でつないだものである。従って例えば、Aパターンは、高校と介護専学、高校と福祉系大、高校と非福祉大の間には有意差があるが他の介護専学、福祉系大、非福祉大の間には有意差がない、すなわち高校だけがかなり低い値を示しているパターンであることをし

表4 学年別障害別受容的態度得点

	高1			高2			高3			介護専学			福祉系大			非福祉系大			検定結果
	知的障害	身体障害	精神障害	知的障害	身体障害	精神障害	知的障害	身体障害	精神障害	知的障害	身体障害	精神障害	知的障害	身体障害	精神障害	知的障害	身体障害	精神障害	
01_住みやすく	4.03	4.48	3.93	3.96	4.45	3.81	3.97	4.58	3.68	4.41	4.67	4.29	4.21	4.64	4.09	4.06	4.43	3.90	G
02_国が援助	3.93	4.21	3.77	3.88	4.24	3.63	3.88	4.34	3.53	4.34	4.54	4.14	4.29	4.58	4.19	4.11	4.32	3.88	A
03_親だけ限界	4.08	3.88	3.99	4.03	3.83	3.95	4.10	3.85	4.07	4.21	4.22	4.24	4.40	4.37	4.44	4.24	4.17	4.21	A
04_社会全体責任	3.35	3.52	3.41	3.34	3.58	3.31	3.22	3.46	3.23	3.83	4.09	4.00	3.93	4.20	3.80	3.56	3.90	3.62	B
05_望 ボラ参加	2.67	2.96	2.72	2.86	3.23	2.79	2.75	3.17	2.70	3.95	4.29	3.73	3.37	3.59	3.21	2.74	3.15	2.82	D
06_望 放送	2.58	2.69	2.67	2.74	2.98	2.82	2.71	2.91	2.83	3.65	3.81	3.81	3.44	3.80	3.54	2.78	3.06	2.96	E
07_望 接触	2.57	2.89	2.61	2.70	3.15	2.74	2.68	3.17	2.64	3.87	4.11	3.79	3.37	3.72	3.29	2.72	3.14	2.71	F
08_望 新聞記事	2.48	2.65	2.60	2.74	2.92	2.80	2.73	2.89	2.77	3.55	3.71	3.72	3.64	3.84	3.78	2.88	3.14	3.05	C
09_普通生活可	3.32	3.64	3.15	3.17	3.68	3.07	3.09	3.63	2.94	3.55	3.95	3.50	3.47	4.00	3.28	3.14	3.71	2.99	E
10_多様作業可	3.39	3.65	3.27	3.32	3.69	3.23	3.39	3.74	3.25	3.80	3.93	3.67	3.66	4.07	3.62	3.39	3.82	3.16	E
11_健常作業可	3.25	3.60	3.23	3.24	3.72	3.16	3.25	3.73	3.19	3.59	3.95	3.68	3.62	4.05	3.51	3.33	3.84	3.18	G
12_指導効果有効	3.52	3.74	3.42	3.58	3.93	3.48	3.63	3.96	3.54	4.01	4.17	3.87	3.81	4.19	3.68	3.65	4.02	3.46	G
13_共同生活要	3.59	3.76	3.51	3.52	3.86	3.49	3.70	4.04	3.55	4.21	4.38	3.97	3.93	4.33	3.79	3.78	3.95	3.46	E
14_社会参加良	3.64	3.89	3.55	3.55	3.94	3.45	3.66	4.04	3.43	4.27	4.38	4.02	3.98	4.40	3.77	3.76	4.14	3.53	G
15_健障共労働良	3.63	3.89	3.50	3.62	3.96	3.41	3.64	4.00	3.43	4.29	4.36	3.96	3.93	4.34	3.76	3.77	4.10	3.45	G
16_健障交流良	3.81	3.91	3.61	3.82	4.04	3.59	3.89	4.13	3.66	4.51	4.50	4.16	4.07	4.48	3.91	3.89	4.17	3.60	G





めす。

おおむね図1をみてもわかるが、高校生、非福祉大、福祉系大、介護専学の順になりそうであるので、これらのパターンはその順位を反映するように決定した。すなわち、

- 1) A～CとD以下は高校生－非福祉大の有意差の有無で区分でき、
- 2) A, BとCは非福祉大－福祉系大の有意差の有無で区分でき、
- 3) D, EとFは福祉系大－介護専学の有意差の有無で区分できる。

高校－介護専学は全てに有意差がみられた(全パターンで線が存在する)。

なお、性差については、去年は『受容的態度得点はQ4「知的障害の人のことは、社会全体が責任を持つべきだと思う」のみが有意差なしでその他の項目はすべて男性<女性となった』と述べたが、全て有意差が見られた。なお、以上の学校、性要因の交互作用は見られなかったため、

### 非福祉系学部の大学生<

### 福祉系学部の大学生≦介護専門高校生

また、

### 男性<女性

とってよいと思われる。

### 3 受容的態度の因子的妥当性について

生川(1995)の4因子、即ち理念的好意因子、実践的好意因子、能力肯定因子、地域交流因子から4項目ずつとりだし、16項目の受容的態度を作成したが、同じ因子構造をとるかどうかを昨年同様検討した。

因子抽出法に最尤法を用い、バリマックス回転後の結果を表5, 6, 7に示した。表5は知的障害に関する受容的態度の因子分析結果であり、生川(1995)の地域交流因子と理念的好意因子が第1因子に含まれていた。表6は身体障害に関する受容的態度の因子分析結果であり、生川(1995)の地域交流因子と理念的好意因子が第1因子に含まれていた。表7は精神障害に関する受容的態度の因子分析結果であり、生川(1995)の地域交流因子

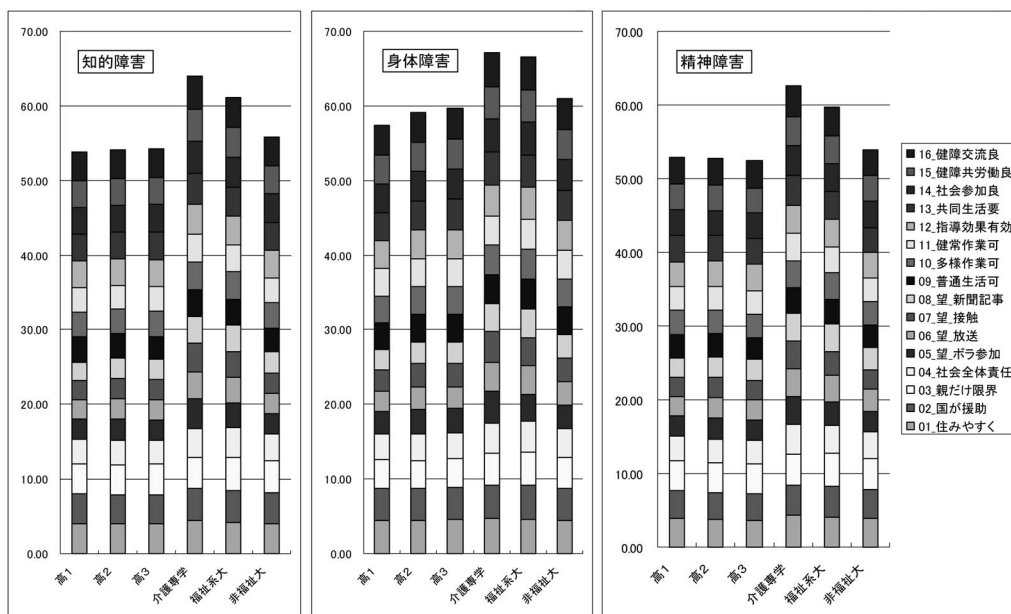


図1 学年別受容態度得点図

と能力肯定因子が第1因子に含まれていた。

以上から

- 1) いずれの障害でも固有値1.0以上の因子は3
- 2) 因子構造からは知的障害と身体障害は同じ、精神障害は別の構造をしていた
- 3) 第1因子が全て「地域交流」因子+「理念的好意」因子あるいは「能力肯定」因子という構成
- 4) 第1因子の固有値のみがきわめて大きいという結果になった。昨年度豊村(2004)では、上記とほぼ同様の結果を受けて生川(1995)の因子の抽出はある程度適切であったが、障害全体に対する態度としては2因子、あるいは3因子と考える方が適切であるとした。そして、『生川(1995)の「地域交流」+「理念的好意」+「能力肯定」因子を1つにまとめた因子、「社会的関与」とでも名付けられる因子であり、残りが「実践的好意」であるが、Q5「〇〇障害の人のためのボランティア活動に参加したいと思う」、Q6「〇〇障害に関するテレビやラジオの放送を見た

り聞いたりしたいと思う」、Q7「〇〇障害の人と接してみたいと思う」、Q8「〇〇障害に関する新聞記事などを読みたいと思う」という項目からはむしろ「個人的関与」と命

表6 身体障害に関する受容的態度の因子分析結果

身体障害項目		第1因子	第2因子	第3因子
地域交流	身16_健障交流良	0.810	0.228	0.318
	身15_健障共労働良	0.792	0.204	0.379
	身14_社会参加良	0.733	0.201	0.423
	身13_共同生活要	0.715	0.250	0.371
理念的好意	身02_国が援助	0.573	0.196	0.310
	身01_住みやすく	0.543	0.134	0.275
	身04_社会全体責任	0.409	0.344	0.141
	身03_親だけ限界	0.328	0.173	0.048
実践的好意	身06_望_放送	0.157	0.900	0.107
	身08_望_新聞記事	0.178	0.836	0.136
	身07_望_接触	0.282	0.767	0.218
	身05_望_ボラ参加	0.288	0.738	0.160
能力肯定	身10_多様作業可	0.252	0.131	0.860
	身11_健常作業可	0.314	0.174	0.761
	身09_普通生活可	0.327	0.217	0.657
	身12_指導効果有効	0.397	0.128	0.639
固有値		7.843	2.060	1.349

表5 知的障害に関する受容的態度の因子分析結果

知的障害項目		第1因子	第2因子	第3因子
地域交流・理念的好意	知16_健障交流良	0.678	0.414	0.242
	知14_社会参加良	0.634	0.542	0.167
	知15_健障共労働良	0.629	0.478	0.191
	知02_国が援助	0.599	0.257	0.239
能力肯定	知13_共同生活要	0.595	0.478	0.235
	知01_住みやすく	0.566	0.143	0.239
	知04_社会全体責任	0.479	0.126	0.301
	知03_親だけ限界	0.383	0.061	0.112
実践的好意	知10_多様作業可	0.164	0.769	0.152
	知11_健常作業可	0.204	0.682	0.163
	知09_普通生活可	0.181	0.624	0.213
	知12_指導効果有効	0.326	0.614	0.164
固有値		7.366	1.725	1.313

表7 精神障害に関する受容的態度の因子分析結果

精神障害項目		第1因子	第2因子	第3因子
地域交流	精14_社会参加良	0.831	0.182	0.255
	精15_健障共労働良	0.823	0.197	0.245
	精13_共同生活要	0.784	0.204	0.261
	精16_健障交流良	0.768	0.216	0.272
能力肯定	精11_健常作業可	0.744	0.199	0.177
	精10_多様作業可	0.725	0.223	0.183
	精12_指導効果有効	0.705	0.179	0.193
	精09_普通生活可	0.670	0.234	0.183
実践的好意	精06_望_放送	0.168	0.881	0.200
	精08_望_新聞記事	0.199	0.868	0.173
	精07_望_接触	0.385	0.666	0.189
	精05_望_ボラ参加	0.330	0.615	0.286
理念的好意	精01_住みやすく	0.264	0.149	0.827
	精02_国が援助	0.320	0.178	0.823
	精04_社会全体責任	0.273	0.263	0.608
	精03_親だけ限界	0.096	0.113	0.419
固有値		8.190	1.837	1.496



名したほうがふさわしいように思われる。今仮に「社会的関与」と名付けた因子は、さらには項目をよく検討して、生川(1995)の「能力肯定」因子をそこからとりだし3因子とすることが障害者に対する態度としてはふさわしいように思われる』と結んでいたが、今回も同様の結果となった。

なお、本報告は2003年度北星学園大学特別研究費の補助を受けた。また資料作成には3年次学生の高澤昌代さんの多大な協力をえた。

#### 【文献】

藤本忠明・小花和昭介(1973)「精神障害者に対する偏見の規定要因について」追手門学院大学文学部紀要7,140-151

法務省法務総合研究所(2001)「平成13年度版犯

罪白書」,財務省印刷局

生川善雄(1995)「精神遅滞児(者)に対する健常者の態度に関する多次元的研究—態度と接触経験,性,知識との関係—」特殊教育学研究,32(4),11-19

大谷博俊(2002)「知的障害児(者)に対する健常者の態度に関する研究—大学生の態度と交流経験・接触経験との関連を中心に—」特殊教育学研究,40(2),215-222

豊村和真(2004)「学生の障害児者に対する受容的態度に関する研究(第1報)」北星論集,41,85-98

渡邊映子・宮本文雄(2000)「福祉心理学科学生の福祉意識に関する調査研究」東京成徳大学研究紀要7,77-90

付録1 質問紙(精神障害分+知識等)

※実際は別紙(精神障害分)

I 精神障害について述べた下記の意見に対し、あなたがどう思うかを1(全く思わない)から5(とても思う)までの中で最も適当だと思った番号に○をつけて下さい

(1) 精神障害の人のために、地域環境をもっと住みやすいものにしていくべきだと思う

1 2 3 4 5

(2) 精神障害の人が仕事につけるように国の方でもっと働きかけるべきだと思う

1 2 3 4 5

(3) 精神障害の人の面倒を見るのは、親だけでは限界があると思う

1 2 3 4 5

(4) 精神障害の人のことは、社会全体が責任を持つべきだと思う

1 2 3 4 5

(5) 精神障害の人のためのボランティア活動に参加したいと思う

1 2 3 4 5

(6) 精神障害に関するテレビやラジオの放送を見たり聞いたりしたいと思う

1 2 3 4 5

(7) 精神障害の人と接してみたいと思う

1 2 3 4 5

(8) 精神障害に関する新聞記事などを読みたいと思う

1 2 3 4 5

(9) 精神障害の人も普通の社会生活を送ることが出来ると思う

1 2 3 4 5

(10) 精神障害の人もいろいろな作業をやっていけると思う

1 2 3 4 5

(11) 一般の人の仕事の中には精神障害の人が入って出来る仕事がたくさんあると思う

1 2 3 4 5

(12) 精神障害の人も、指導すれば効果が上がると思う

1 2 3 4 5

(13) 精神障害の人たちも他の人たちと一緒に生活することが必要だと思う

1 2 3 4 5

(14) 精神障害の人もどんどん社会参加をした方がよいと思う

1 2 3 4 5

(15) 他の人たちと精神障害の人たちが一緒に働くことは良いことだと思う

1 2 3 4 5

(16) 他の人たちと精神障害の人がまじわることは大切なことだと思う

1 2 3 4 5

**II 精神障害の人とあなた自身との関係を述べた次の質問に対し、あなたがどう思っているかを1(全く思わない)～5(とても思う)のうち、あてはまる番号に○を付けて答えて下さい**

(1) 精神障害の人があなたの家の隣に引っ越して来てもかまわない

1            2            3            4            5

(2) 精神障害の人と友達になってもかまわない

1            2            3            4            5

(3) 精神障害の人と(恋愛感情が伴う)交際をしてもかまわない

1            2            3            4            5

(4) 精神障害の人と結婚してもかまわない(あなたが未婚とした場合)

1            2            3            4            5

**III 精神障害について述べた意見に対しあなたがどう思っているかをあてはまる番号に○をつけて答えてください**

(1) どこの家庭からでも精神障害の子供は産まれる可能性があると思いますか

1. 思う            2. 思わない

(2) 精神障害の出現率は、人口1,000人中1人(0.1%)以下だと思いますか

1. 思う            2. 思わない

(3) 精神障害はすべて遺伝によるものだと思いますか

1. 思う            2. 思わない

(4) 精神障害の人が犯罪を犯す率は健常者に比べ高いと思いますか

1. 思う            2. 思わない

**IV 下記の質問で、自分に当てはまれば「はい」の方に、当てまらなければ「いいえ」の方に○をつけてください**

(1) 精神障害の人と話をしたことがある

はい            いいえ

(2) 精神障害の人と一緒に仕事(遊び)をしたことがある

はい            いいえ

(3) 精神障害の人と一緒に食事をしたことがある

はい            いいえ

(4) 精神障害の人と生活を共にしたことがある

はい            いいえ

(5) 精神障害の人のために活動するボランティアに参加したことがある

はい            いいえ

0. a.~g.の中から次の障害に当てはまるものを選んでください（いくつでも結構です）。

- 知的障害 ( )  
 身体障害 ( )  
 精神障害 ( )

a. 難聴 b. 精神分裂病 c. 精神遅滞 d. 花粉症 e. ちえ遅れ f. うつ病 g. 肢体不自由

1. 次のうち、『福祉施設』はどれとどれですか。該当するものの番号を○で囲んでください。

1. 児童相談所 2. 福祉事務所 3. 産院 4. 幼稚園 5. 保育所  
 6. 児童養護施設 7. 少年院 8. ろう学校 9. ろう児施設  
 10. ろう幼児通園施設 11. 知的障害児施設 12. 養護学校 13. 老人クラブ  
 14. 児童自立支援センター 15. 保健所 16. 養護老人ホーム  
 17. 特別養護老人ホーム 18. 有料老人ホーム 19. 軽費老人ホーム

2. 福祉施設のうち、数の多いものは次のどれでしょうか。多い順に下欄に番号をつけて下さい。

施 設	1.老人施設	2.児童福祉施設福祉設	3.乳児院	4.身体障害児・者施設	5.保護施設	6.保育所
順番（数の多い順）						

3. 次の施設の名を見て、どういう感じ（印象）がするか、あなたの感じ、印象を書いてください。

回答は右欄から選んで、番号で記入してください。いくつでも結構です。

- a. 児童養護施設 ( )  
 b. 特別養護老人ホーム ( )  
 c. 乳児院 ( )  
 d. 知的障害者授産施設 ( )  
 e. 軽費老人ホーム ( )  
 f. 少年院 ( )  
 g. 知的障害児施設 ( )  
 h. 自閉症児施設 ( )  
 i. 身体障害者更生施設 ( )  
 j. 精神障害者厚生施設 ( )  
 k. グループホーム ( )  
 l. 知的障害者更生施設 ( )

1. 悲しい, 悲惨  
 2. 楽しい  
 3. 暗い  
 4. 明るい  
 5. 不幸  
 6. 幸せ  
 7. のんびり  
 8. 忙しい  
 9. きれい  
 10. きたない  
 11. 怖い  
 12. 賑やか, 騒々しい  
 13. 静か  
 14. その他（具体的に）

付録2

表4を性別に示した

男性のみ	高1			高2			高3			介護専学			福祉系大			非福祉大		
	知的障害	身体障害	精神障害	知的障害	身体障害	精神障害	知的障害	身体障害	精神障害	知的障害	身体障害	精神障害	知的障害	身体障害	精神障害	知的障害	身体障害	精神障害
01_住みやすく	3.93	4.37	3.83	3.83	4.33	3.70	3.88	4.48	3.61	4.27	4.54	4.19	4.03	4.27	3.85	4.01	4.30	3.82
02_国が援助	3.82	4.04	3.58	3.74	4.10	3.49	3.74	4.20	3.45	4.20	4.44	4.00	4.06	4.33	3.91	3.97	4.19	3.84
03_親だけ限界	4.15	3.89	4.02	3.91	3.73	3.88	4.00	3.70	4.05	4.10	4.14	4.14	4.18	4.06	4.18	4.32	4.05	4.18
04_社会全体責任	3.31	3.43	3.29	3.24	3.42	3.23	3.11	3.42	3.17	3.75	3.98	3.92	3.85	4.00	3.61	3.62	3.91	3.66
05_望_ボラ参加	2.45	2.73	2.49	2.63	2.97	2.61	2.54	2.91	2.51	3.88	4.19	3.51	3.12	3.33	2.91	2.64	3.04	2.78
06_望_放送	2.39	2.53	2.43	2.50	2.74	2.59	2.45	2.64	2.53	3.53	3.59	3.59	3.09	3.36	3.06	2.61	2.88	2.79
07_望_接触	2.42	2.68	2.41	2.55	2.97	2.60	2.50	2.98	2.42	3.71	3.95	3.66	3.03	3.52	3.06	2.59	2.95	2.64
08_望_新聞記事	2.38	2.49	2.41	2.53	2.70	2.56	2.51	2.69	2.50	3.36	3.44	3.45	3.21	3.45	3.36	2.73	2.98	2.82
09_普通生活可	3.25	3.46	2.92	3.11	3.63	2.99	2.97	3.41	2.75	3.39	3.66	3.28	3.15	3.79	3.15	3.07	3.63	2.95
10_多様作業可	3.28	3.51	3.07	3.23	3.63	3.08	3.30	3.57	3.10	3.53	3.63	3.46	3.39	3.85	3.18	3.31	3.70	3.17
11_健常作業可	3.16	3.49	3.09	3.18	3.69	3.04	3.22	3.55	3.02	3.42	3.75	3.51	3.45	3.82	3.15	3.38	3.75	3.22
12_指導効果有効	3.46	3.62	3.23	3.45	3.85	3.35	3.59	3.79	3.45	3.90	4.10	3.75	3.79	4.09	3.52	3.60	3.94	3.46
13_共同生活要	3.42	3.56	3.28	3.37	3.77	3.33	3.60	3.84	3.40	4.12	4.34	3.76	3.73	4.12	3.55	3.68	3.78	3.36
14_社会参加良	3.58	3.71	3.37	3.44	3.84	3.26	3.64	3.88	3.34	4.22	4.32	3.80	3.79	4.12	3.52	3.77	4.08	3.50
15_健障共労働良	3.49	3.71	3.26	3.48	3.87	3.23	3.49	3.81	3.32	4.19	4.19	3.72	3.79	4.09	3.58	3.63	3.94	3.39
16_健障交流良	3.69	3.72	3.41	3.68	3.91	3.43	3.74	3.93	3.49	4.44	4.32	4.00	3.88	4.24	3.76	3.84	4.03	3.57

女性のみ	高1			高2			高3			介護専学			福祉系大			非福祉大		
	知的障害	身体障害	精神障害	知的障害	身体障害	精神障害	知的障害	身体障害	精神障害	知的障害	身体障害	精神障害	知的障害	身体障害	精神障害	知的障害	身体障害	精神障害
01_住みやすく	4.17	4.65	4.08	4.16	4.62	3.97	4.13	4.74	3.79	4.52	4.78	4.38	4.30	4.81	4.20	4.13	4.58	3.99
02_国が援助	4.09	4.47	4.06	4.08	4.44	3.83	4.13	4.58	3.66	4.45	4.62	4.26	4.39	4.68	4.31	4.28	4.48	3.93
03_親だけ限界	3.97	3.85	3.93	4.20	3.97	4.05	4.27	4.09	4.10	4.31	4.29	4.33	4.50	4.51	4.55	4.13	4.32	4.23
04_社会全体責任	3.40	3.66	3.61	3.48	3.81	3.43	3.38	3.54	3.35	3.90	4.19	4.07	3.97	4.28	3.89	3.50	3.88	3.58
05_望_ボラ参加	3.01	3.32	3.07	3.21	3.61	3.05	3.10	3.59	3.01	4.00	4.38	3.91	3.49	3.70	3.34	2.87	3.29	2.87
06_望_放送	2.88	2.94	3.03	3.09	3.32	3.15	3.13	3.36	3.31	3.75	4.00	4.00	3.59	4.00	3.76	3.00	3.28	3.17
07_望_接触	2.79	3.22	2.93	2.93	3.40	2.95	2.98	3.48	3.02	4.00	4.25	3.90	3.53	3.81	3.39	2.88	3.36	2.80
08_望_新聞記事	2.64	2.90	2.90	3.04	3.25	3.15	3.11	3.22	3.21	3.71	3.94	3.94	3.84	4.01	3.96	3.07	3.32	3.34
09_普通生活可	3.42	3.91	3.49	3.27	3.75	3.20	3.29	3.98	3.24	3.70	4.20	3.69	3.61	4.09	3.34	3.23	3.80	3.04
10_多様作業可	3.56	3.86	3.57	3.45	3.79	3.45	3.52	4.03	3.50	4.04	4.19	3.86	3.78	4.18	3.81	3.50	3.97	3.15
11_健常作業可	3.39	3.77	3.46	3.34	3.76	3.34	3.31	4.02	3.47	3.72	4.12	3.83	3.69	4.15	3.68	3.28	3.94	3.13
12_指導効果有効	3.62	3.93	3.71	3.76	4.05	3.66	3.68	4.23	3.69	4.10	4.24	3.99	3.82	4.23	3.76	3.72	4.12	3.46
13_共同生活要	3.84	4.09	3.86	3.74	3.99	3.71	3.86	4.38	3.79	4.29	4.41	4.14	4.01	4.42	3.89	3.91	4.16	3.58
14_社会参加良	3.72	4.15	3.83	3.71	4.09	3.73	3.69	4.30	3.60	4.30	4.43	4.22	4.07	4.53	3.88	3.76	4.20	3.57
15_健障共労働良	3.84	4.18	3.86	3.83	4.09	3.68	3.89	4.32	3.61	4.38	4.51	4.16	4.00	4.45	3.84	3.94	4.29	3.52
16_健障交流良	3.98	4.21	3.91	4.01	4.23	3.82	4.15	4.47	3.95	4.57	4.65	4.30	4.16	4.58	3.97	3.96	4.35	3.64

